

Ⅰ 小池百合子氏は流行神か

- | | | |
|---|-------------------------|----|
| 1 | 小池百合子氏は流行神か | 8 |
| 2 | ドングリころころどんぶりこ | 13 |
| 3 | 豊田真由子議員の罵詈雑言はかわいらしい | 16 |
| 4 | 史上最初の二十九連勝 十四歳の快拳 | 19 |
| 5 | トランプ大統領のアメリカを、見誤ってはならない | 25 |
| 6 | 非核三原則を取り上げた石破発言を、歓迎したい | 31 |

II 「安らかに眠って下さい」

- 7 「安らかに眠って下さい」 36
- 8 日本における左翼運動は風俗でしかない 40
- 9 これで日本を守るのか 46
- 10 いったい「良識」は、良識なのだろうか 55
- 11 スーパーの野菜のように、没個性に陥った日本人 58
- 12 白頭鷲と中国龍 61
- 13 百四十一年も変わらない日韓関係 68

III 軍艦行進曲、瓦解と俠気

- 14 軍艦行進曲、瓦解と俠気 80

IV スカイツリーは、今の日本にとっての大伽藍

- 15 東京五輪で、もっとも大切な国と、どう接するか 84
- 16 大東亜戦争は昭和二十年八月十五日に終わらなかった 87
- 17 快男子!! 秦野章・法務大臣 93
- 18 流しのギター弾きになりたかった 96
- 19 船出の和船には、女夫釘 100
- 20 スカイツリーは、今の日本にとっての大伽藍 106
- 21 粹な女将、十月の青空と松茸 110
- 22 鰻なんて食い物はな…… 114
- 23 佳人に心がときめくのは、若さの証し 119

- 24 秋来 タダ一人ノタメニ長シ
25 失われた男らしさ、女らしさ

128 123

V 男は独立していることが生命

- 26 男は独立していることが生命
27 日本は女性的な国
28 李白、兼好法師、佐藤一斎に学ぶ
29 国と社会に幸せを運びたい
30 六十年前の「夏めく」
31 熟年世代が立ち上がって国を立て直す秋

156 151 147 143 138 134

VI 小鳥と分けあう、春の豊かな饗食

- 32 小鳥と分けあう、春の豊かな饗食
33 金盃とマツカーサー
34 二人は「公人」
35 父のラブレター
36 わが偉大なる従姉 小野洋子
37 時代精神の代表選手

162 166 169 172 175 189

あとがき

193

出典一覧

197

Ⅰ 小池百合子氏は流行神か

SAMFY ✓

1 小池百合子氏は流行神か

都議選で、小池百合子都知事の「都民ファーストの会」が圧勝し、自民党が惨敗した。私は「日本は千数百年以上も、変わっていないのだ」と思っ、溜息をついた。日本だけに独特な流行神現象が、間断なく起った。

江戸時代には「時花神」と呼ばれて、「はやりがみ」という訓がふられた。「時花仏」もあつたが、花が咲いて、ぱつと散るのに、喩えたものだった。

ある時、ある神社か、ある仏閣、祠に詣でると、大きな御利益がえられるという噂がひろまり、参詣者が殺到するが、半年か一、二年しか続かず、忘れられてしまうことから、「祀り上げ祀り棄て」といわれた。

流行神について『日本書紀』の皇極紀に、不思議な力をもつ蚕ほどの虫が現われ、拝むと富や長寿がえられるとあって、民衆がどつと押し寄せたと、記されている。「都鄙（都と田舎）の人、常世の虫を」と語られているが、もつとも古い記述だろう。

流行神仏は常世神とか、志多羅神、欽神とか、時代によつてさまざま名で知られた。

小池百合子一座の役者たちは大部分が、選挙直前に公募によつて集まった、新人によつて

占められていた。

私は高校生のころから、「日本人とは何か」ということに関心をもつて、日本の民俗学の草分けである柳田國男（一八七五年〜一九六八年）の著作を、読み漁るようになった。今日なら、文化人類学に当たる。そんなことから、アメリカの文化人類学者で、コロンビア大学社会学部長をつとめたハバード・パッシン教授（一九一六年〜二〇〇三年）と親友になった。私はパッシン教授を、「どうして先進国の人々の社会行動を研究するのを社会学といい、後進国になると文化人類学というのか」といって、からかったものだった。

柳田は流行神について、「男女老幼狂奔して之を迎へ候者都鄙（都会と田舎）に満ちたるやうに候か、過ぎての後は夢のやうに候はんも、其折に際して渴仰の情極めて強烈にして、他意左右を顧みるの暇なかりしなるべく、（略）、此時涌きかへりたる熱中血潮は即今我々の身の内を環るものにして（略）愚痴と云ひ迷信と云はばそれ迄」と、述べている。

そして「近世の流行神欽神の如きは、其蔓延の極盛時に当たりては、鉦鼓雜揉（乱れ混じり）正に一千年前の修多羅神福德仏の流行、さては大昔の常世の神の狂態に伯仲せしやうに候」と、評している。

何であれ、神体となった。しばしば仏像の宝玉に似ていることから、全国の橋の欄干の柱頭につける葱の花に似た擬宝珠が、流行神仏となつて群衆を集めた。

私は東京の文京区小日向^{こひなた}で生まれたが、数日前にテレビのバラエティショーをみていたところ、林泉寺の「縛られ地蔵」が、全国にある「びっくり地蔵」の一つとして取り上げられた。享保年間だったが、この石仏を縛ると願が叶うといつて、大賑わいとなったという。

江戸時代の享和三年の記録を読むと、浅草の寺の裏に、狐が四、五匹棲む穴があつて、御利益がえられるという噂がひろまり、「いかなる故有しにや諸人参詣群集し、近辺酒食の肆^{いぢり}(店)夥^{いぢり}しく出来、賑やかにありしか、半年も過ければ、参詣人まれにてもとの田舎のことに、俄^{にわか}に盛る者久しからずという理なり」と、嘆じている。

流行神仏はやはりすたりが、激しいのだ。民衆は熱しやすく、さめやすいのだ。

季節の花である時花^{じか}のように、すぐに萎れてしまう。これらの一過性^{はやち}の流行神仏に対して、既成の仏教教団が「淫祠」とか、「淫神」と呼んで蔑んだ。

小池都知事はもつとも新しい、流行神である。私は淫神とは呼ぶまい。流行神仏はしばしば熱狂的な踊りをともなつたが、都知事選と都議選中に、小池氏の街頭演説を見ようと群集した人々を見ていると、流行神の参詣者を思わせた。

江戸時代にはほぼ六十年周期で、大規模な「お蔭参り」現象が発生した。伊勢神宮のお札が空から降ってきたという噂が、全国にひろまって、大群衆が日常の生活から飛び出して、道中歌い踊りながら奔流^{ほんりゅう}のようになって、伊勢神宮へ向かった。「抜け参り」とも呼ばれた。

最後の「お蔭参り」は、明治元年の前年の慶応三年に起つた。庶民ばかり三百万人が参加したといわれるが、明治に入つてすぐに行われた国勢調査によれば、日本の人口が三千万人だったから、十人に一人が加わつたことになる。

当時の記録によれば、「昼夜鳴物^{ねぶた}を打たゞき、男女老若も町中さわぎ、其時のはやり歌にも、おめこへ紙はれ、はげたら又はれ、なんでもえじやないか、おかげで目出度、という^{ぼか}斗りにて大きわき、又は面におしろい杯を付け、男が女になり女が男になり、又顔に墨をぬり老女が娘になり、いろくと化物にて大踊、只欲^{ただ}も徳もわすれ、えじやないかとおとる」と踊り練り歩く、狂態を演じた。

なぜ、日本にだけ流行神という現象が、頻発したのだろうか。

日本には仏教が入ってくるまで、神々が群生しており、どこにでも神がいるという信仰だけあつて、教典、戒律がある教派宗教が存在しなかった。絶対的な神格が存在しないために、人々が神仏を自由奔放につくりだすことができたからだったと思う。

今日でも、日本には絶対的に正しいという聖が、欠けている。私は在来信仰である神道は、おおらかなものであつて、宗教ではないと思う。

日本人は森羅万象を崇める信仰心が強いものの、教典や戒律によつて縛られないから、宗教性が薄い。「宗教」という言葉も、明治になつてから寛容を欠くキリスト教が入ってきた

ために、新しく造られた明治翻訳語であって、それまで日本には宗門、宗旨、宗派という言葉しか、存在していなかった。

世界文化遺産に指定されると、そこに人々が大急ぎで殺到するのは、世界のなかで日本だけにみられることだ。

上野動物園でパンダに子が生まれると群集して、『上野精養軒』の株価が急騰する。利に聡い新聞社や、テレビ局が流行神をつくるために、噂をひろめる。

都議選に惨敗して以後、それまで「安倍一強」と囃されたのに、安倍内閣の支持率が急落した。大手新聞やテレビが、「安倍叩き」に熱中している。これも、江戸時代に庶民の大きな娯楽だった歌舞伎の演目に、権力者が没落するというテーマが、もつとも多かったことを思わせる。武士とその家族は歌舞伎を観劇することを、禁じられていた。

日本では江戸時代を通じて、政治が世界のどこの国よりも安定して、治安がよく、庶民が豊かで、自由な生活を享受していた。支配階級であった武士だけが、政治に責任を負って、庶民は政治に参加することがなく、政治の傍観者だった。

大正十四年の普通選挙によって、庶民がはじめて政治に参加したが、ここ九十年あまりのことではない。そのために庶民にとって政治というと、流行神に現世利益とか、世直しの願望を託すような次元で、とらえられている。

小池都知事はいつも洋装に気を砕いて、「ファースト」とか、「ワイズ・スペンディング」とか、舌足らずの英語を乱発している。国粹主義者のなかに眉を顰める向きがあるが、私は日本人のように泥臭いところが、好感をもてる。

日本では古代から常世とこよの国といって、遠い海原の果てから幸がもたらされるといふ、信仰があった。

日本は海の文化だから、陸の文化である中国にない、「宝船」という発想がある。そのために、日本語のなかに夥しい数にのぼる英語から借りてきた、生ま半可な言葉が氾濫している。

2 ドングリころころどんぶりこ

十月二十二日の開票の結果によって、六十五年にわたった日本の長い暗夜が終わって、日本に朝が訪れることになるかもしれない。

九月二十八日に、民進党の両院議員総会が開かれて、前原誠司代表の呼び掛けに従って、民進党の衆院議員全員がそろって離脱して、小池百合子代表の希望の党に合流することに同意した。

私はその直後に、小池代表が「改憲・安保法に反対した者は、受け入れない」といって拒

んだ時に、神々は日本を見離していないと、胸が躍った。

一部で、「同じ女性でも、若い弁護士を弄んだ山尾志桜里先生よりも、小池先生のほうが日本を弄んでいるから、スケールがはるかに大きい」と揶揄^やしていたが、私は小池代表が日本の朝を引き寄せたと、思った。

自公がどれだけとるか、希望の党がどこまで伸びるのか分らないが、日本維新の党を加えれば、改憲勢力が日本の強い流れとなることを期待している。

私は選挙についてまったくのシロウトだから、淡い希望で終わるかもしれない。

もつとも、希望の党は誰でも名乗れる党名だし、「花粉症をゼロにする」といった、手輕な公約に不安がのこる。

それにしても、前原代表を選出した民進党大会から僅か二十八日後に、希望の党に雪崩をうって合流したいと望んだ民進党の「リベラル派」議員は、情けない。慌てて「立憲民主党」をつくったが、「ホームレスの」党とか、「おちうどの」党とかルビをふりたい。

「リベラル派」議員は「へ、ドングリころころどんぶりこ、小池にはまってさあ大変」という、児童劇を演じているのだろうか、私は選良がたが醜態を演じるのを見て、小泉八雲ことラフカディオ・ハーンが、かつて「日本人にとって信念は、サイコロジカヤ、コスチューム心理的衣装にしかすぎない」と指摘したことを、思い出した。

ハーンは多くの日本人がすぐに新しい状況に身を委ねるので、信念とか、理念といつても、借着のようなものだとか皮肉ったのだった。

「リベラル派」の議員は、希望の党がまだ政策も発表していなかったのに、全員が駆け込むことにしたのであるから、信念も理念もあつたものでなかった。なぜ、民進党に留まらなかったのか。信念は借着だったのだ。

かつて村山富市氏が、自民党との連立政権の首相となった時に、それまで自衛隊が違憲であり、日米安保条約を解消する信念を主張していたのに、自衛隊も、日米安保体制も受け入れた。

護憲派の多くの人々が、この程度の信念しか持っていないとすると、この人たちに国民の生命を託してよいのか、疑わざるをえない。

護憲派が信仰する平和主義は、精神が何よりも尊いとする精神主義であつて、精神が日本の平和を護ってくれるというものだ。北朝鮮も、中国も、この崇高な精神を理解してくれるはずだから、日本を害することがないと、確信しているのだろうか。

護憲派の人々に「平和憲法」と呼ばれる、日本国憲法は精神主義でしかない。呪い^{まじな}の護符以外の何ものでもない」といったら、きつと怒ることだろう。

私は護憲派の善男善女を見てみると、七十二年前の夏の敗戦の最後の日まで、「神州不滅」

「二億総特攻」を叫んでいた狂信的な軍人たちが、「護憲主義」の衣をまといつて舞い戻ってきたのに、ちがいないと思う。多くの至純な軍人たちは、「万邦無比（世界に他にない）の日本精神」があるから、日本は絶対に滅びない」と、確信していた。

護憲主義も、惨憺たる敗戦を招いた精神主義であって、何一つ変わらない。

先の大戦が終わってから、七十二年もたつのに、いまだに日本は危険きわまる国粋主義の手から逃れることが、できないでいる。

日本国憲法が、その邪しまな聖典となっている。一日も早く憲法を改めたい。

3 豊田真由子議員の罵詈雑言はかわいらしい

私はテレビで豊田真由子衆議院議員が、運転中の秘書に対して、罵詈雑言をあらんかぎりの声で絶叫しているのを聴いて、「日本はよい国なのだ」と、安心した。

きつと、読者の方々は意外だと思われることだろう。

だが、私は日本の国民性がよく表れていると、思った。日本語の特徴や、日本の民族性が、中国、韓国や、ヨーロッパの諸国民と大きく異なっていることが、浮き彫りになっていた。

豊田議員は自分よりも年長の男性秘書を、言葉を盡して罵倒しているのに、「このハゲ！」

とか、「こいつ、豊田真由子様へ向かって、ふざけやがって！」というように、相手を罵る語彙（言葉の表現）が、実に乏しい。

中国や、韓国語になると、「お前の母親の××（女性性器）は腐っているー！」とか、「犬の糞を食ったばかりの顔をしゃがって！」とか、そのままとても訳せない、相手を罵り倒す言葉が、数百もある。

これは、言語学で「罵倒語」（英語では curse words、呪いの言葉）と呼ばれるが、キリスト教の旧約聖書を読むと、「いったい、これが宗教書なのか」と疑わされるほど、罵倒語に溢れている。

私はケネディ大統領が暗殺された直後に、当時のアメリカの流行伝記作家のウィリアム・マンチエスターが、アメリカですぐに話題作となった『ある大統領の死』をアメリカの週刊誌に連載したのを、『週刊新潮』が版權を買った時に、訳者をつとめた。

ところが、ケネディ大統領とジャクリン夫人が会話のなかで、英語国民が気に入らないことに対していう、「シット！」（糞尿）とか、「ファック！」（性交のさま）とか、人を罵つていう「アスホール」（尻の穴）など罵倒語を口汚く連発するので、まったく翻訳しようがなく、頭を抱えたことがあった。

これは、英語だけではない。フランス語、ドイツ語などのヨーロッパ諸語にも、数限りな

い罵倒語がある。荒々しい人たちなのだ。それに対して、日本語では罵倒語になると、「バカ!」「アホ!」とか、「クソ!」とか、じつに貧弱だ。多用される罵倒語と云ったら、おそらく七つか、八つぐらいしかないのではないか。

豊田真由子議員のような女性は、古代から日本では珍しくなかった。

『源氏物語』と同じ時代に著された、藤原道綱母による『蜻蛉日記』は十九歳に嫁いでから、二十年あまりにのぼる結婚生活の不平鬱憤を綴った、日記文学である。著者が癩癩を爆発するたびに、夫の兼家が「おお、こわや、こわや」といつて、怯えている。

日本は、中国、韓国や、西洋が女性を男性に従属させていたのと違って、古代から男女が和歌を詠んで、対等に相問歌を交換したように、女性が強い国であつてきた。

豊田議員の秘書の証言を読むと、豊田議員は癩性が強いだけで、絶叫した後に癱瘓して意識を失っていないから、先天的な癩癩症ではない。

日本語に罵倒語がほとんど存在しないのは、日本人が互に思い遣つて、人と人との和を重んじるからである。それに対して他国では、人々が「俺が」「わたしが」といつて、自己中心で、つねに相手に勝たなければならぬ対立関係にあるからだ。

私は英語屋だが、英語を書くたびに、*you he she they*などはみな小文字なのに、I (私)

だけが、どうして大文字なのか、身震いする。

日本の古来信仰である神道のもつとも基本的な教えは、「言挙げ」をしてはならないことである。言葉はもつぱら自己主張と、自己弁解のために用いられるから、言葉よりも心を用いて、できるかぎり言葉を慎んだほうがよい。

日本では「よい言葉を発すれば、現実がよくなる」という、言霊信仰が力をもつてきた。そのために、罵倒語が存在しなかった。日本は言葉と論理を重んじる他の諸国と違って、心の国であつてきた。いまでも、日本は「言霊の幸ふ国」なのだ。

そう思いながら、豊田議員の罵声を聞いていると、可愛らしい。配偶者がおられるようだが、夫君は一千年前の『蜻蛉日記』の兼家のように、苦勞されているのだろうか。

4 史上最初の二十九連勝 十四歳の快挙

中学三年生の藤井聡太四段が、将棋公式戦で史上最初の二十九連勝を果したことが、日本全国を涌かせた。藤井君の快挙に、喝采したい。

ふと、私は藤井君を少年扱いにするのは、日本社会が幼児化しているからではないのだろ